

(社) 大日本水産会/日本脂質栄養学会共同開催

「おさかな食べようネットワーク」交流・シンポジウム  
(プログラム)

開催日：平成24年6月29日(金) 13:20-16:30

場所：三会堂ビル9F 石垣記念ホール

タイトル：『なぜ、魚食が大切か ---魚ばなれに緊急提言---』

13:20-13:30 開会あいさつ (社) 大日本水産会 重 義行専務  
日本脂質栄養学会 鈴木 平光理事長

講演の部

13:30-13:50 「魚離れをどう捉えるべきか」:

水産庁増殖推進部研究指導課(普及・育成班)  
情報技術企画官 上田 勝彦氏

13:50-14:10 「日本人の疾病動向(罹患率の変動)」:

富山大学和漢医薬学総合研究所  
元教授、医学博士 浜崎 智仁氏

14:10-14:30 「DHA・EPAの胎児から老人までの有効性」

女子栄養大学栄養学部  
教授、医学博士 鈴木 平光氏

14:30-15:20 パネルディスカッション 第一部

『もっと魚をたべよう!!』

コーディネーター：山田 麻未氏(女子栄養大学大学院、管理栄養士)

パネリスト：上田 勝彦氏

浜崎 智仁氏

鈴木 平光氏

※第一部終了後各位は会場最前列指定位置に着席、パネルディスカッション 第二部に参加。

(休憩 10分間)

15:30-16:30 パネルディスカッション 第二部

『なぜ、若い世代・子育て世代の食卓に魚料理がのらないのか?』

---食べるにはどうすれば良いのか、ネットワークにできること---

コーディネーター：二瓶 徹氏(財団法人食品産業センター振興部主事)

パネリスト： 未定 (主婦)  
未定 (栄養学専攻を除く一般学生)  
細川 良範 (ネットワークメンバー、経営コンサルタント)  
中西 圭子 (流通関係としてコープネット事業連合広報室)  
宮本 博紀 (おさかな食べようネットワーク事務局)

※パネリストの一部変更の可能性があります。

共催：(社)大日本水産会、日本脂質栄養学会

後援者(予定)：水産庁、(財)農林水産奨励会、フードアクションニッポン、おさかな普及協議委員会各社(株式会社マルハニチロホールディングス、日本水産株式会社、株式会社ニチレイフレッシュ、株式会社極洋、全国水産物卸組合連合会、全国水産物商業協同組合、全国水産物加工業協同組合連合会、全国中央市場水産卸協会)、JF 全漁連、東京都農林水産部水産課、愛媛大学南予水産研究センター、農林省関東農政局消費安全部、東京都栄養士会、全国消費者団体連絡会、コープネット事業連合、海の幸に感謝する会など。

(以上)

## 開催と講師紹介について

開催日が「おさかな食べようネットワーク」設立後 5 ヶ月を経過することになることより、活動の進捗評価、課題を抽出、会員の意見交流を行い、今後の魚食普及推進活動の連携・協働体制を促進する機会と致します。

また、歯止めがかからない魚離れの現状に対し、食の栄養学の観点から危惧を抱く日本脂質栄養学会から緊急提言をしたいという提案があり、共同で行事設計を行うことと致しました。

タイトルを「なぜ、魚食が大切か---魚ばなれに緊急提言---」として、三人の講師による魚離れの現状の考察、海洋国日本における魚食の健康への優位性、魚の脂質・栄養、効果をお話しして頂きます。その後パネラーを混じえ、ネットワーク会員他の参加者と魚ばなれ現状への認識、魚食普及への意見交流を行い、今後のネットワーク活動指針を探ることと致します。

### 1. 講演の部 講師紹介：

#### (1) 「魚離れの現状をどう捉えるべきか」

水産庁増殖推進部研究指導課（普及・育成班）情報技術企画官 上田 勝彦氏

長崎大学水産学部を卒業、漁師経験後、1991年水産庁入庁、2003年より境港漁業調整事務所、2011年より現職。上田企画官は自らも魚食普及への **Re-Fish** という仲間ネットワークをつくり、生産者から販売者を結ぶ中、水産業、市場の現場情報を多く持たれている。今回の講演では魚離れ現状を打破する魚食普及活動の課題をお話し頂きます。

#### (2) 「日本人の疾病動向（罹患率の変動）」

富山大学和漢医薬学総合研究所 元教授・医学博士 浜崎 智仁氏

魚油と栄養に関する研究歴が長く、3月末で現職から退任された。1971年千葉大学医学部卒業後、同大学大学院医学研究科へ。1974-78年米国マサチューセッツ工科大学留学、千葉大学医学部第二内科に勤務後、富山大学和漢医薬学総合研究所に勤務。研究分野は脂質栄養学、研究テーマは多価不飽和脂肪酸に関する臨床試験と疫学調査漢方剤の臨床研究。1999-2010年12月まで日本脂質栄養学会理事長。今回は、日本人の疾病動向と魚油の観点からのお話し頂きます。

#### (3) 「DHA・EPAの胎児から老人までの有効性」

女子栄養大学栄養学部 医学博士・教授 鈴木 平光氏

1974年東京水産大学卒業後、農林水産省食品総合研究所を経て、2006年より女子栄養大学教授。専門分野は水産食品学、衛生学、脂質栄養学。DHA、EPA研究の第一人者であり、研究課題は魚類脂質の健康維持・増進効果。「魚を食べると頭が良くなる」「メタボリック症候群と栄養」など著書多数。2011年1月より日本脂質栄養学会理事長。

今回は、魚類脂質が健康に大きな貢献をするにも関わらず、魚介類摂取減少の現状に大いなる懸念抱かれており、魚離れが健康の阻害要因に成りかねないという観点から、魚食の大切さをお話し頂きます。

### (3) パネルディスカッション 第一部

緊急提言講演の取りまとめとして、『もっと魚を食べよう!!』として、質疑応答を行う。講演時間では語られなかった部分、講演者への率直な質疑を行うことで、出席者とともに魚を食べることの深ぼりを行います。

コーディネーター： 山田 麻未氏（女子栄養大学大学院、管理栄養士）

パネリスト： 上田 勝彦氏  
浜崎 智仁氏  
鈴木 平光氏

※ステージに面積制限あり、第一部終了後各位には会場最前列指定位置に着席願ひ、第二部における質疑に備えて頂きます。

### (4) パネルディスカッション 第二部

第二部では講演の部、パネルディスカッション第一部討論を受け、ネットワーク最大課題である魚食普及に焦点を当て、「なぜ、若い世代・子育て世代が魚を食べなくなったのか？ 食べるにはどうすれば良いのか？」、ネットワークが出来ること、やるべきことについて討論します。

魚食については、食育問題、生活スタイルの変化、家庭内個食、世代間格差、食の嗜好多様化など多くの課題が存在します。今回のパネルディスカッションでは、魚介類消費が少ない若年世代、子育て世代に焦点を当て、「選択されない理由、選択する条件」など、パネラーとともにネットワーク会員ほかの来場者を交え意見交流、討論をします。流通関係者からは消費者の魚類消費傾向についてお話し頂き、ネットワーク会員でもある経営コンサルタントの方からは、量販店店頭などでどのようなことが起きているのか、その実情と変化のお話しを頂き、魚食普及推進を行うネットワークの活動に関して意見交流、取り組みについて討論をします。

コーディネーター：二瓶 徹氏（ネットワーク管理・運営委託者、

財団法人食品産業センター振興部主事、経歴は別紙）

・農産品に関する産業振興活動を行われており、本ネットワークの管理・運営をお願いしている。

パネリスト：<sup>よう</sup>葉 美佐子氏（主婦）

・高中小育ち盛りの3子息を持ち、家族の食づくりに奮闘中。  
未定（栄養学を専攻していない一般学生を予定）  
細川 良範氏（ネットワーク会員、経営コンサルタント）  
・消費者嗜好、商品加工、惣菜動向に詳しい。

中西 圭子氏（流通業、コープネット事業連合広報部）

・8都道府県370万人の会員を有するコープ団体広報部、会員の動向、安全・安心、表示など幅広い消費者課題と対応。

宮本 博紀氏（ネットワーク事務局、(社)大日本水産会）

※パネリストにつきましては各団体、組織の行事都合により変更される場合があります。

（以上）

## 略 歴

### 1. 氏名

二瓶 徹（にへいとおる）

### 2. 会社名

財団法人食品産業センター

### 3. 所属部課・役職名

振興部 主事

### 4. 生年月日

昭和47年2月7日（39歳）

### 5. 学歴

法政大学大学院政策科学研究科修士課程 修了（政策科学修士）

日本大学大学院農学研究科博士前期過程 修了（農学修士）

### 6. 職務経歴

財団法人食品産業センター 入社

#### (1) 情報・技術協力部

- 1) 食品加工分野における政府開発援助（ODA）を担当。中国（水産練り製品・冷凍食品）、フィリピン（菓子）、モンゴル（製塩）、ヴェトナム（水産加工）、インドネシア（飲料）の5ヶ国において、調査・派遣・受入のスキームを実施。

#### (2) 技術開発部

- 1) 産学官連携による国産原料を利用した食品加工技術の開発を担当。機能性食品分野、安全性確保分野など、約20件の開発を実施。
- 2) 食品業界の食品衛生担当として、企業及び団体に対し食品衛生に関する諸問題の研究を実施（HACCP専門講師として、HACCP導入工場へ支援）。

#### (3) 普及・食育推進部（現振興部）

- 1) 地域食品の活性化に資する業務を担当
- 2) 全国食品産業協議会 事務局（全国の食品産業団体の取りまとめ）
- 3) 全国食料産業クラスター協議会 事務局（全国のクラスター協議会の取りまとめ）
- 4) 国内初、地域食品ブランドを保護する地理的表示基準制度「本場の本物」策定と審査・認定業務の実施
- 5) その他、地域食品のブランディングの実施
- 6) 食品企業および地域における食環境整備（食育）の推進

### 7. 外部役職

- (1) 法政大学大学院「食と農」研究所 特任研究員
- (2) 一般社団法人すこやか食育エコワーク 理事

### 8. 外部委員

- (1) 中小企業庁「農商工連携等人材育成事業」検討委員・講師
- (2) 千葉県「ちばの食育推進作業部会」検討委員
- (3) 横浜市「食事バランスアップ事業」アドバイザー

- (4) 農林水産省「食育先進地モデル実証事業（沖縄県）」アドバイザー
- (5) 東京都墨田区「すみだ食育推進会議」委員
- (6) 東京都品川区「教育委員会研究会」年間講師

#### 9. 大学講師

- (1) 女子栄養大学 非常勤講師
- (2) 女子栄養大学大学院修士課程審査委員
- (3) 仁愛女子短期大学 非常勤講師
- (4) 法政大学 非常勤講師
- (5) 東京家政学院大学 非常勤講師

#### 10. 講演

月平均4回程度のため、記載せず。なお、テーマは「食育」、「異業種連携による食育」、「食環境整備」、「地域食品のブランディング」、「農商工連携」、「6次産業化」等、農林水産省、地方自治体、企業等からの依頼が多い。

#### 11. 所属学会

日本栄養改善学会、日本フードシステム学会、日本社会学会、関東社会学会、日本都市社会学会

以上

平成 年 月 日

シンポジウム参加申込書

シンポジウム名: 「おさかな食べようネットワーク」交流・シンポジウム  
開催日時: 平成24年6月29日(金) 13:20-16:30  
開催場所: 石垣記念ホール(三会堂ビル9F)  
(東京都港区赤坂1丁目9-13(三会堂ビル9F))

参加希望者: 以下の項目を記載ください。

団体・企業・個人名	(団体 ・ 企業 ・ 個人)
代表者名・役職	
参加者	
業種・職業	
活動概要	
住所(連絡先)	〒
電話/FAX番号	電話: FAX:
Eメールアドレス	

※上記の情報は、社団法人 大日本水産会のみで使用いたします。

※参加申込書のFAX宛先は以下へお願い致します。

FAX番号: 03-3582-2337

宛先: 社団法人大日本水産会 魚食普及推進センター

※参加申込書のEメール送信先は以下へお願い致します。

Eメールアドレス: miyamoto@suisankai.or.jp

宛先: 社団法人大日本水産会 魚食普及推進センター

※問合せにつきましては以下の電話番号にお願い致します。

TEL: 03-3585-6684

社団法人大日本水産会 魚食普及推進センター/宮本、石川